

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800419		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生94-19	0948-42-7578	
自己評価作成日	平成27年06月23日	評価結果確定日	平成27年09月01日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に同系の有料老人ホームと共に地域に根ざした施設を目指している。グループホームの特性を生かし、けやきの理念である「入居者第一」をモットーに入居者が元気で明るく楽しく過ごされる事を願って頑張っています。特に朝の体操、レクリエーションには力を入れている。体を動かし、声を出し、頭の体操で皆さん元気です。本人の思いを大切にしながら、出来る事を継続して頂き「ここでよかった…」の言葉がでるように頑張りたいと思っています。季節ごとの移ろいを感じて頂く為に季節の野の花を絶やさないようにしています。畑で採れた野菜を食卓にのせて話題をつくります。クラシックなどの音楽なども耳にしながら食事を美味しく頂く工夫をしています。看取り体制も整い安心して日常生活を送って頂けるように頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームけやき」は嘉麻市の高台にある閑静な住宅地に位置し、系列の有料老人ホームと併設し、2ユニット(定員18人)の事業所である。周囲は緑豊かで、手入れの行き届いたホームの畑では、トマト、ピーマン、ナス等が多く実り、利用者は収穫を楽しみ、畑で採れた旬の野菜を職員が工夫して作る料理は、美味しく、利用者のほとんどが完食しており、ホームの自慢である。「入居者第一」を理念に掲げ、介護技術の高い職員が、利用者一人ひとりの思いを大切にして、笑顔と優しい声かけを行い、利用者が楽しみながら、体操やハンドベルの演奏を行うことで、心身機能の維持を目指し、利用者が生きがいをもって暮らせる介護サービスの提供を行っている。また、運営推進会議を通じて、地域との信頼関係を築き、地域密着型事業所として福祉事業の拠点を目指し、存在感のあるグループホーム「けやき」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年08月20日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの特性を生かし、けやきの方針である「入居者第一」の理念に基づいて、行動、実践している。	ホームが目指す介護のあり方(家庭的な環境の中で、尊厳のある暮らしの支援を、利用者本位に行う)を示した理念を掲げ、職員合同会議の中で、理念を唱和し、職員一人ひとりが理解し、利用者の生きがいに繋がる介護サービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の地域生活の継続性をはかり、地域交流を大切にしている。	自治会に加入し、利用者と職員は、地域の行事や婦人会と交流を図り、ホームの催し物には地域の方やボランティア、家族が参加し、活発な交流が行われている。また、小学生の職場見学や中・高生の体験学習の受け入れを行い、認知症の啓発活動に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議のメンバーを増やしたり、嘉麻市住民との交流を深める支援を継続している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者も増え、幅広く情報交換の場として力を入れ、サービス向上に努めている。	会議は年6回隔月毎に開催し、ホームの運営や取り組み課題等を報告し、外部の目を通した参加委員から、質問や要望、情報等を提供して貰い充実した会議である。出された案件は検討し、ホーム運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、地域包括センターにて開催される、ケアマネ研修会に参加して、連絡を密に取り、顔なじみの関係を築いている。	管理者は、ホームの利用状況や困難事例、事故報告等を行政窓口相談し、情報交換して連携を図っている。地域包括支援センターで毎月開催される会議や、研修会に参加し、意見交換を行い行政と協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会、合同会議にて、勉強会を開催して、身体拘束しない介護をめざしている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、職員会議の中で、身体拘束について勉強会を開き、禁止行為の事例を改めて見直し、職員間で、「身体拘束をしないさせない」介護について話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者が安心して暮らせるグループホームを目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	常に勉強会をして精神的、身体的な拘束をしないように、注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近是利用される方も増え、機会を設けては後見任制度について、勉強会を開催し、理解を深めるようにしている。	現在、権利擁護の制度を活用している利用者があるので、職員は利用者や家族にとって、重要な制度であることを理解し、資料やパンフレットを用意している。また、利用者の状態を見極め、関係者と話し合い、申請手続きに向けた支援体制を整え、利用者が不利益を被らないように取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前にしっかりと話し合い、十分に納得した上で契約するようにしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に必ず、近況を伝え意見や要望を聞くようにしている。嘉麻市からの介護相談員にも相談して頂くように言葉掛けしている。	職員は、利用者と日常会話の中から、思いや意向を聴き取り、家族面会時に報告や相談を行い、家族から意見や要望、心配な事等を聴き取り、利用者の介護計画の作成や、ホームの運営に反映出来るように取り組んでいる。また、話す機会の少ない家族には、毎月ホーム便りや利用者の近況を報告し理解を得ている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議を開き、意見の交換を行い、反映に繋げている。	職員合同会議やユニット毎の会議を開催し、職員の意見や要望、企画等を出し合い、活発な会議になっている。管理者は、職員の意見に耳を傾け、ホームの運営に反映させることで、職員の働く意欲に繋がるように取り組んでいる。また、管理者は、職員が意見や要望を言いやすいように配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の長所を活かし優れた面を發揮し活躍して張り合いを持てるように役割担当を決め、頑張ってもらっている。休みも希望を取り入れ次のやる気に繋げている。ボーナス時に報奨金等の加算がある。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、男女の差別をしない。各自の能力を最大に發揮して頂くように指導している。	職員の休憩室やロッカーを確保し、休憩時間や勤務体制、希望休に配慮し、働きやすい職場環境を目指している。外部の研修に職員の経験や習熟度に合わせて交代で参加してもらい、介護の知識と、技術の向上を目指している。また、職員の得意分野を活かして、手芸や園芸、歌、料理、レクリエーション等の能力を發揮して、楽しく働ける職場づくりに取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	その人らしさを大切に尊厳が失われていないか？常に意見交換し人権尊重に努めている。研修等に参加するように取り組んでいる。	会議や勉強会を通して、利用者の人権の尊重について学んだ職員が、利用者が、安心して暮らせる介護について話し合い、利用者一人ひとりに合わせて、言葉遣いや対応に配慮している。また、職員は常に理念の中の「尊厳のある生活」を意識し、実践に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	合同会議時、勉強会を開催し担当者を決め、発表している。介護講座にも参加を呼び掛け、介護技術の向上に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	嘉麻市グループホームケアマネ研修会に毎月参加して、意見交換や、困難事例など、相談してサービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと、家族からの意見要望を伺い、本人の気持ちに寄り添える状況を考慮しながら、信頼関係を早く築けるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントで得た情報で、家族の思いと本人のニーズがどこにあるかを見極める事を大切に、要望はしっかりと受け止めるようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで得た情報で、何が必要かを見極め、サービスにはどのような支援が必要か情報を集め支援している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態をしっかりと確認し、残存能力を活かせるようにしている。家庭的な雰囲気大切にしながら、日常生活を支え合い協力し合っている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事や外出等の時に協力をお願いし、家族の方と共に、支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や美容院など、今までの馴染みの関係を断ち切らないようにしている。本人が望まれる事や、地域の方々との交流を継続できるようにしている。	職員は、入居前の利用者の生活状況や人間関係を把握し、出来るだけ、病院や美容院、買い物等に同行し、出先で知人と出会ったり、ホームに友人が来訪し、利用者が、これまでに築いてきた馴染みの関係や、地域社会との関わりが継続できるように取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどの共同で行うことの、楽しみやお互いを認め、協力できるように支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去なさった方でも、機会があれば連絡を取って、関係を断ち切らないようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴や個性を大切に思い、日常会話や行動を把握するようにしている。寄り添う姿勢を大切に、本人の思いを会議などで、情報交換し、把握するようにしている。	職員は、利用者や日常の会話の中から、思いや意向を聞き取り、家族と相談し実現に向けて取り組んでいる。また、意志を伝えることが困難な利用者にも職員が諦めずに、利用者や寄り添い、話しかけ、表情や仕草から、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの意見をしっかりと伺ったうえで、アセスメントの情報などで生活歴や生活環境をしっかりと把握し、本人の気持ち、思いに寄り添えるように信頼関係の構築に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況を日誌に記載し、意見交換を行い職員同志で把握できるようにしている。共有しなければならないことは、申し送りなどで、把握できるようにしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者それぞれに、担当者を決め、日々の関わりの中から、意見交換を行う。体調については主治医や、訪問看護師の意見を取り入れ、モニタリングをおこない、家族の面会時に、担当者会議を開き、介護計画を作成している。	利用者や家族の意見や要望を聞き取り、担当者会議で利用者の現状と目標達成状況等を確認し、利用者本位の介護計画を3ヶ月ごとに作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医、看護師と話し合い、その都度、介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の変化や、介護サービスを通して気づいたことを、通してスタッフ間で、情報交換を行いケアプランの見直しを行っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各々のニーズを考えて、それぞれの利用者に効果的なサービスが出来るように協力要請をして、取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との連携で、ボランティアの方や、推進会議の皆さんに協力を得て、楽しみごとを支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や、家族の要望を優先し、係りつけ医の受診の支援をしている。週1回の訪問看護で体調の管理を行って頂き、早期発見、早期対応をして、安心できる、連携体制を行っている。	契約時は、利用者や家族の希望を聴き、馴染みのかかりつけ医の受診を支援しているが、利用者の重度化が進むと、往診できる協力医療機関に利用者、家族の納得の上で変更し、24時間安心して医療が受けられる支援体制を整えている。また、主治医と介護職員は、常に連携し、利用者の医療情報の共有を図っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携により、日常の気づきを報告し、相談、アドバイスを受け、早期発見に努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や相談をし、早めの入退院が、できるように関係づくりに努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期の在り方について確認を行う、またその時期になった時には再度話し合い、納得のいく信頼関係をつくり、真心こめて支援している。職員間でもその体制については、協議し、チームケアを行うようにしている。	ターミナルケアについて利用者の入居時に、家族にホームで出来る支援と、病院でしか出来ない支援を説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと、改めて利用者や家族から希望を聴き、主治医の意見を聞きながら、今後の介護方針を確認し、看取り介護に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、いつでも対応できるように定期的に勉強会や訓練を行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、第一日曜日に訓練をおこなっている。様々な場面を想定して、訓練が身に付くようにしている。毎回、反省事項を意見交換し、協力体制をとっている。	消防署の指導と協力を得て年1回、防災訓練を実施し、毎月第一日曜日には自主防災訓練を実施する中で、通報や初期消火、避難誘導を行い、利用者が安全に避難場所に避難できる体制を整えている。繰り返し訓練を行うことで、職員一人ひとりが避難誘導を体で覚え、いざという時に対応できるように工夫している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のある生活空間を再現し、長生きしてよかったと思って頂けるように対応している。守秘義務を理解し、徹底している。	人生の先輩である利用者を職員は敬愛し、優しい対応や声掛けで、利用者のプライバシーを守り、安心して過ごせるホームを目指している。また、利用者の個人情報の記録の保管や、職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、職員全員に周知出来ている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の生活背景を理解し、押しつけでなくやりたい意欲を引き出せるよう声掛け、意思の確認を行い、自己決定できるよう、声掛けています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の入居者の体調や表情、発言などにきを配っている。レクリエーションの活動で、ご自分のペースで楽しく過ごせ支援を心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、一日のメリハリをつけておしゃれを楽しんで頂いています。毎年、七夕まつりの時は浴衣を着て着物の楽しみも頂いています。美容師などにも相談して、髪型なども個性を引き出すようにしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえを共にしたり、季節ごとの梅干しやラッキョ漬、床漬けを共に作っている。畑で採れた旬のものを味わって季節感を感じて頂いている。	食事は利用者の楽しみであり、畑で採ってきた新鮮な野菜を使い、利用者の残存能力を引き出して、下拵えや味付け、盛り付け、後片付け等を職員と一緒に手伝ってもらい、美味しそうに食事する利用者の様子は明るくて、微笑ましいものがある。また、季節ごとに梅干しやラッキョ漬、床漬け等を作って楽しんでる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をチェックしている、嚥下や咀嚼にあわせて、キザミ食やミキサー食を提供している。その方にあった盛り付けなども工夫している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、介助している。必要に応じて訪問歯科の利用もし、食事が美味しく食べれるように支援している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力を活かし、出来るだけトイレで排泄できるように声掛け、支援している。排泄パターンを把握し、早めの声掛け、さりげない誘導で、排泄支援している。	利用者の重度化が進んでいるが、職員の努力でトイレでの排泄の支援に取組み、排泄チェック表や生活習慣を把握した職員が、タイミング良く声掛けし、失敗の少ない排泄の支援に取り組んでいる。また、下肢筋力を生活リハビリに取り入れ、利用者の立位が保てるように努力している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や飲み物で工夫したり、毎日の運動で便秘予防に努めている。医師との連携で体調に合った緩下剤を使用している方もある。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが体調にあわせて、個々にあった支援体制を行っている。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望に沿った入浴が出来るように支援し、毎日入ることも可能である。大と小の2つの浴槽があり、利用者のその日の状態に合わせて選んでもらい、入浴が楽しく行われるように支援している。重度化の利用者には、ストレッチャーを使用して浴槽に入ってもらっている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れたときや入眠時間はその方に応じて対応している。ゆっくり、ゆったりと過ごせるように心がけている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋を備え、誰もが確認できるようにしている。薬が変わったときなどは、こまめに変化を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの楽しみごと、趣味などを活かしながら、レクリエーションなどで気分転換をはかり、笑顔の出る日々を送られるようにしている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも協力を得ながら、季節ごとの花見や、ドライブ、地域の祭りや行事に出かけている。	気候の良い時期を利用して、周辺の散歩や買い物に出かけ、四季の移り変わりを、利用者の五感で感じてもらい気分転換に繋げている。また、地域の祭りや活動にも出かけ、家族の協力を得て外食や、買い物に出かける等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に好きな買い物ができるように支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方は少なくなったが、年賀状など書ける方には書いて頂いている。電話は好きな時に自由にかけていただいている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には入居者と職員合作の絵や工作を飾っている。玄関洗面所には生け花を活けて花をきらさないようにしている。常に音、光、温度など気配りし、心地よく過ごせるようにしている。食事の時は優しい音楽などを聴きながら、食事できるようにしている。	広い敷地の中にある平屋建てのホームは、玄関や壁に利用者と職員の季節ごとの作品が掲示され、生花を飾り季節感あふれる環境である。リビングルームに利用者が集まり、気の合う利用者同士で談笑したり、ゲームや作品作りを楽しんでいる。また、建物内は、音や照明、温度や湿度、換気に注意し清潔な共有空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れた場所に長椅子などを置き一人になりたい空間も大切にしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の大切にしている、馴染みの家具、仏壇、写真などを置き自分なりの楽しみを持って頂きながら居心地良く生活できるようにして頂いている。	利用者が長年使い慣れたお気に入りの筆筒やベッド、鏡や仏壇、生活必需品を家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに暮らせるように工夫し、明るくて居心地の良い居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下も明るく広い。歩行時は手すりを使用できるようになっている。トイレや浴室など、共有の場所には貼紙などをして、解り易くしている。		